

## 保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:平成31年3月28日 (平成30年12月アンケート実施)

事業書名:子どもの生活研究所めばえ学園 保護者数(児童数):30名 回収数 21名 割合 70%

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	21				園庭や体育館もあり子ども楽しそうです。	・居室は、設置基準を満たしています。 ・居室以外にも、体育館や園庭なども、お子さんの状態に合わせて使用しています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	18	2	1		・不安感の強い子どもなので一対一の対応を望みます。 ・よく様子を見ていてくれます。 ・出来れば心理士がいると良いです。 ・言語聴覚士が関わった時には細かく内容を知りたいです。	・これまで基準より多く児童指導員を配置してきました。 ・お子さんの低年齢化や状態により、より個別的な配慮が必要な場合もあります。基本集団療育ではありませんので、安全管理を含め、配置人数の中で、より柔軟に対応していける支援体制は今後工夫していくことが課題です。 ・言語聴覚士を配置し保護者へは支援内容をより詳細に説明していきます。 ・職員の専門性を高める為に、日々のSV体制や自己研修計画を通して支援力の向上を目指していきます。 ・親子療育(動作法)を担当している公認心理師が助言を行っています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	21					部屋に入ると、自分のペースで楽しむ場所に子どもが行っているのが良く分かっています。

	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	19	1	1	よく清掃してくれています。	・清掃・消毒・安全等の確認を行っていきます。 ・その時の子どもに合わせた活動場所を、随時検討していきます。
適切な支援の提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 <u>児童発達支援計画*2</u> が作成されているか	19	1	1	親の希望や願いを考慮してもらっています。	子どもや保護者とコミュニケーションをしっかりと取りながら、子どもの実態やニーズを的確に把握していきます。その上で個別支援計画を作成し、同意をもらい、対応していきます。
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	19		2	必要な項目が設定され、保護者が家庭でも取り組んでいける具体的な内容です。	児童発達支援管理責任者を中心として、保護者や子どもの意向を分かりやすくして、項目の整理を行っています。今の時点でその子にとって療育のポイントに記述するなど、一人一人の子どもの状態と療育目標、支援ポイントを把握した上で内容となっています。それについても保護者と意見交換をしながら、進めています。
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	20	1		・人との関わりに問題がある為職員は計画に沿って取り組んでいます但し難しさもあると思います。 ・日々の様子（連絡帳）からも個別支援計画に沿った支援を感じ取れます。	引き続きお子さん一人一人の個別支援計画に基づき、職員と保護者で共通理解を持ちながら支援をしていきます。
	8	<u>活動プログラム*3</u> が固定化しないよう工夫されているか	17	1	3	・固定化していると思います。 ・工夫されていると思います。	低年齢のお子さんや同じことを繰り返すことで不安や緊張状態が薄れ、集団参加がしやすいお子さについては、プログラムを固定することがあります。個々の状態に合わせて、プログラムのバリエーションは増やしていくなど、今後も工夫していきます。

9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	13	1	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所と共有の園庭なので、健常のお子さん達を目にする機会は多いと思います。</li> <li>・お祭りなどで機会があり、有難いです。</li> <li>・午後クラスも保育園との交流があると良いです。</li> <li>・機会はありますが、交流とは違うように思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・併用の保育園との交流は、日常的には園庭での遊びや行事などで交流の場を持つようにしています。</li> <li>・低年齢のお子さん達は場を共有する中で、雰囲気を感じながら、年長のお子さんは一緒に活動状況に参加していくなど、お子さんに合わせた状況が持てるようにと考えています。交流の内容については今後も検討していきます。</li> </ul>
10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	20	1		保護者会で説明してもらっています。	保護者会や入園前のオリエンテーションの際に説明をしていますが、保護者にとって、説明がより分かり易くなるように、伝え方なども工夫していきます。
11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	19		2		個別支援計画では、発達支援、家庭支援、地域支援の項目に合わせ、必要な支援等を記述しています。内容を保護者の方に説明をしながら確認し合い、同意を得ています。
12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング*4等）が行われているか	16	3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の連絡や面談はとても参考になります。</li> <li>・面談だけでなく、送迎時にも詳しく教えてほしいです。</li> <li>・子どもの達は先生が居ないと不安になるのでそれどころではないと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族支援プログラムとして、動作法の親子療育やペアレントメンターの活用をしながら、子育ての具体的なことについてアドバイス等をしたり、意見交換が出来る場を持つようにしています。</li> <li>・また日常的に送迎時や面談等でも保護者への助言等に努めていますが、引き続き継続していきます。</li> </ul>

13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	18	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の何げないことも聞いてもらい有難いです。</li> <li>・職員は伝えたいことが沢山あるように思いますが、情報共有は出来ていないところもあります。</li> </ul>	日頃より、保護者と送迎時に話をしたり、そこで対応できない時は電話連絡をしながら情報共有に務めています。
14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	19	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた時間の中で伝えてくれています。</li> <li>・日常の何気ないことも聞いてもらい有難いです。</li> </ul>	個別面談は年3回の他、随時必要に応じて、お申し出がある際やこちらから声をかけて行っています。
15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	20	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても助かっています。</li> <li>・心強いです。</li> <li>・十分に時間を確保する余裕がないように思います。</li> <li>・パパさんの会等、子どものことを知る機会があるのは良いと思います。</li> </ul>	引き続き、保護者会や懇談会等、療育勉強会、ぱっぱの会を開催していきます。また保護者主催の茶話会への協力等を行います。交流の機会をより多く持てるようにします。
16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	20	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・すばらしい対応です。</li> <li>・子どもの生活研究所の相談支援事業所が一つの建物内にあり本当に迅速に連携を取りながら困りごとに対して必要な体制を整えて貰いました。</li> <li>・不安です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご希望があれば随時対応させていただいております。</li> <li>・相談内容によって返答に時間を要することもあります。保護者が不安に感じることはないように、迅速に対応していけるように今後も務めていきます。</li> </ul>

17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	20		1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、お子さんに対しては、モデルを示したり、絵や写真カード等の視覚的なアプローチも含め、お子さん自身の内面の気持ちの理解や表出に繋げていけるような関わりに努めていきます。</li> <li>・保護者に対しては日常の送迎時や連絡帳、面談等でも、保護者自身の気持ちに共感しながら、お子さんへの理解や対応についても共有できるよう努めていきます。</li> </ul>
18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	18		1	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月のお知らせや定期的に会報など配布しています。</li> <li>・自己評価結果は、第三者評価での評価はこれまでホームページで公表し、保護者会で伝えるようにしています。今回の自己評価の結果についても、保護者に発信しています。</li> </ul>
19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	18			2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の取り扱いについては。保護者会において、法人の個人情報保護ポリシー・特定個人情報の適正な取り扱いに関する基本方針に基づき対応していることを保護者に説明しています。</li> <li>・職員については再度周知徹底を図ります。また、個人ファイルの保管する棚の鍵は必ず閉め切ること等も注意をしています。</li> <li>・個人情報を取扱う場合は、必ず保護者に説明をして紙面上も同意を得ていることから、引き続きも保護者が不安にならないよう対応していきます。</li> </ul>

非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	19			2	季節ごとに掲示やお知らせ等で情報が分かり、また届け出等もしっかりあり、安心です。	マニュアル等については、保護者会で説明をしていますが、再度詳細に伝えるようにします。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	19			2	繰り返し定期的に行ってもらい、回数を重ねる中で、身につけてほしいです。	避難訓練については、月のお知らせや連絡帳保護者会の折に内容を伝えるようにしています。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	18	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>先生達のが大好きでとても楽しんでいます。</li> <li>以前に比べ楽しく通える日が増えていきます。</li> <li>とても楽しみにしています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お子さん達が安心して安定した気持ちで楽しく過ごせるように職員との関係づくりにも努めていきたいと思えます。</li> <li>楽しめるような活動や行事を職員で話し合い、工夫していきたいと思えます。</li> </ul>
	23	事業所の支援に満足しているか	19	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>沢山成長させてもらっています。感謝しています。</li> <li>安心感と子どもの成長を感じて感謝の思いで一杯です。</li> <li>人員を増やしてほしいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、お子さんが安心して、お子さん自身の自発的や主体性、自己統制力を育て、お子さんの自己実現に向けた支援を職員一同努めていきます。</li> <li>保護者の方と協力しながら一緒に考えていきたいと思えます。</li> </ul>

\*1 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

\*2 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する

\*3 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせることで実施されることが想定されています

\*4 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。

